

施策評価シート

(第1号様式)

総合計画体系	分野	2	保健・福祉・医療	施策担当部	生活福祉部
	政策	2	子どもたちが健やかに生まれ育つ環境づくり	記入副部長名	齊藤 正良
	施策	2	子どもたちの健全な成長を支援します		

【施策の内容】

現状と課題	<p>本市は、母子の健康増進のため健康診査[※]や予防接種などを通して子どもたちの成長を支えてきましたが、今後も健康診査などの受診率や予防接種率を高め、疾病[※]の予防と早期発見、健康の保持・増進に、より一層努めていくことが求められています。</p> <p>また、乳幼児期に基本的な生活リズムや食習慣が確立できていないと、将来の生活習慣病[※]などにつながる恐れがあり、本市においても食習慣の乱れが原因とされる肥満やむし歯が多いことから、乳幼児期からの予防に向けた取組が必要です。</p> <p>さらに、全道的に発達を支援する療育支援[※]に関わる専門職が不足しているため、旭川や札幌などの遠方へ通わなければならない現状があることから、専門職の継続的な確保が必要とされています。</p> <hr/> <p>※健康診査→健康の維持や疾患の予防・早期発見に役立てるため、診察及び各種の検査で健康状態を診てもらうこと。 ※疾病→病気、疾患のこと。 ※生活習慣病→糖尿病・脂質異常症・高血圧・高尿酸血症など、生活習慣が発症原因に深く関与していると考えられている疾患の総称。 ※療育支援→将来様々な形で社会的自立ができるようになることを目指して身の回りのことや運動・認知・ことば・社会性などの指導や支援を行うこと。</p>
目的	健康を保持・増進する機会やサポートが広く行き渡ることで、子どもたちが健やかに成長できる環境を整えます。
主な内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 健やかな発育・発達の支援 2) 感染症予防の推進 3) 正しい生活習慣の確立 4) 療育支援の充実
状況変化	<p>計画当初(平成21年～)からの状況変化</p> <p>平成21年度から「乳児全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん訪問)」を実施。 任意の予防接種として、平成21年度発生した新型インフルエンザワクチン接種の助成(平成21・22年度)。 平成22年度から子宮頸がんワクチン予防接種、平成23年度からはヒブ・肺炎球菌ワクチン接種の助成事業を実施。</p>

【成果指標】

成果指標の達成状況	成果指標の名称	指標の説明	単位	計画策定時	達成値	目標値
				19年度	23年度	25年度
	乳児健康診査・健康相談受診率	乳児健診、乳児相談、1歳児相談の平均受診率	%	98.0	99.4	99.0
	幼児健康診査受診率	1歳6か月児健診、3歳児健診の平均受診率	%	95.1	98.7	97.0
	予防接種率	定期予防接種の平均接種率(三混・二混・ポリオ・麻しん風しん混合・BCG)	%	92.7	86.1	95.0
	3歳児健康診査における、むし歯罹患率	3歳児健診でのむし歯保有者数/健診受診数	%	31.8	20.1	27.3

【市民アンケートの結果】

結果	現在の満足度 (-2「不満」⇒2「満足」)	今後の重要度 (-2「力を入れる必要なし」⇔2「力を入れてほしい」)
	-0.033	1.112

【担当部による評価】

成果と課題	<p>これまでの主な取組と成果</p> <p>乳幼児健診や健康相談は、保護者の認知度も高く、ほとんどの対象となる乳幼児と保護者が利用しており、母子保健事業の一環として、こどもの健全な発達や健康の保持増進の促進のみならず、子育ての早期の子育て支援、児童虐待予防としての位置づけが増大している。近年増加している軽度発達障害等の早期発見、早期療育に繋げるよう幼児健診事後の支援等を強化し、妊娠期から就学までの子育て支援、児童虐待予防となるよう一連の継続的な支援を行っており、小児科医・児童相談所、市こども課、幼稚園保育所・通園センター等関係機関との連携を図りながら実施している。</p> <p>予防接種については、定期の予防接種として平成19年度新たに「国の麻しん排除計画によるⅢ期(中学1年)・Ⅳ期(高校3年)の導入」(平成24年度終了予定)など子どもの健康の保持・増進に努めている。実施に向けては、医療機関の少ない中、市民の利便性や医療機関への負担等について、接種方法(集団・個別接種)等検討しながら実施している。また、平成21年度に発生した新型インフルエンザへの対応や、平成22年度から子宮頸がん予防ワクチンの接種(集団接種の実施)助成及び平成23年度からのヒブ・小児肺炎球菌ワクチンの接種(医療機関での個別接種)助成など、任意の予防接種ではあるものの国の施策に伴う事業を実施し、子宮頸がん予防ワクチンの接種においては87%という全国的にも高い接種率をあげることができた。</p>
	<p>未達成の課題</p> <p>予防接種については、上述のとおり平成20年度から24年度までの5年間、国の「麻しん排除計画」により、麻しん風しん混合ワクチン接種を定期の予防接種に位置づけて対応してきたが、思うように接種率は上がらず、国の平均接種率までは及ばなかった。(ポリオワクチンが、生ワクチンから不活化ワクチンに変わるとの情報があったためか、生ワクチンの接種を控える傾向が見られたことも接種率が下がっている要因の一つとして挙げられる。)</p>
今後の展開	<p>施策の評価を踏まえた今後の取組の方向</p>
	<p>軽度発達障害が増加しているが、早期発見には現在実施している幼児健康診査の内容では限界があるため、その精度を上げ早期療育に繋げるための健診内容の研究が必要である。</p> <p>予防接種については、健康管理システムを大いに活用し、接種率を少しでも上げるよう更なる勧奨を行い、乳幼児・児童生徒及び高齢者の感染症予防に努める。</p>

【内部評価委員会の意見】

意見	
----	--